

# 二〇二五年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	文学研究科 人文学専攻
科目名	日本文学・日本語学専修
選択問題	

## 【問題】

次のA群・B群のうち、いずれかひとつの群を選択して解答しなさい。(A群とB群の両方に答えないこと)。それぞれの解答の前に、選んだ「群」(A群またはB群)を明記すること。

### 《A群》

【問題】次のA～Dから、ふたつ(二題)を選んで答えなさい。解答の最初に問題の記号(A、Bなど)を付けること。

- A 文学における〈アダプテーション〉について、作家や作品名を挙げながら、具体的に論じなさい。
- B 日本文学における外国文学の影響について論じなさい。
- C 近代日本文学における〈文芸復興〉について、作家や作品名を挙げながら、具体的に論じなさい。
- D 近代日本文学における〈文芸思潮〉の中からひとつを選び、その特徴や作家・作品について、具体的に論じなさい。

### 《B群》

【問題】次のE～Hから、ふたつ(二題)を選んで答えなさい。解答の最初に問題の記号(E、Fなど)を付けること。

- E 現代日本語において規範文法と記述文法の異なりが顕著に表れている具体事例をひとつ挙げて説明せよ。
- F 若者言葉は消長が激しいとされるが、現代の若者言葉のうち、将来的に長く定着することが予想される語彙または表現を挙げて、そのように考える根拠を述べよ。
- G 文法化(grammaticalization)と慣習化(conventionalization)の違いについて具体例を挙げて説明せよ。
- H 現代日本語において、他の言語にはない独特の構造と言えるものをひとつ挙げて、具体的に説明せよ。

## 出題意図：

### Purpose of Question：

《A群》これらの問題は、単なる知識を問うものではなく、示された事柄についての受験生それぞれの解釈や方法的アプローチの存り様を問うものである。そこではまず、基本的な文学史上の知識、あるいはジャンルや方法論の基礎的事項を理解しているかを問いつつ、受験生の研究能力及び、研究対象へのそれぞれのアプローチを見るための問題として出題されている。

《B群》日本語教育研究に関わる上で必要となる日本語学の基礎知識を有しているかを確認する。

採点のポイント：一・現代日本語研究における文法という概念の正確な理解、二・現代日本語の文法用語の定義や説明、三・現代日本語の文型や文法項目に対する構造的な理解と機能的な展開、以上の三点について適切に説明されていること。

解答または解答例・・

Sample Answer(s) or Outline :

上記《出題の意図》からもわかるように、ここでは単純に、画一的な「解答」や「解答例」を示すことはできない。そのため本欄では、解答にあたっての基本的な姿勢や方向性を示すものとする。

A 〈アダプテーション〉(翻案)とは、既に発表されている文学作品を原案とし、その作品を映画、演劇、漫画・コミックなど別の媒体に改変したり、原作の舞台設定やストーリーなどの基本的な構造を踏襲しつつ、元の作品とは異なる時代や地域など、別の設定に改変して新しく作品を創造することである。その際、原作をそのまま写すのではなく、翻案者による新たな視点から原作に対して別の解釈を施したり、新たなメッセージを付加するものである。

代表的な例としては、「今昔物語集」の設定を概ね踏襲しつつも、そこに近代人の心理的葛藤を表現した芥川龍之介の「羅生門」がある。あるいは、芥川龍之介の「藪の中」のストーリーに基づき、そこに「羅生門」の舞台設定を加え、さらに原作にはない新たなメッセージ性をもたせた黒澤明の映画作品「羅生門」も翻案の一つだろう。また、川端康成の小説を原作とする成瀬巳喜男監督の映画「山の音」は、原作連載中でありながら作品化を行っており、特に主題の面で原作とは大きく異なる要素を持った作品になっていると言えるだろう。このような翻案の具体的な事例を挙げて、原作と翻案作品の相違点や、翻案作品の文学的意義や独自性などについて説明すること。

B 日本の近代小説は、「小説の主脳は人情なり、世態風俗これに次ぐ」という坪内逍遙の「小説神髓」におけるテーゼから出発するわけだが、逍遙自身が西欧の美学的発想と英文学に関する知見を基盤にしている。その後、明治維新によって大量の西欧文化が移入されたことで、草創期の近代日本文学が形成されることになる。その上で、西欧に留学した鴎外や漱石がどのように外国文学を受容したか。またそれ以降の世代における海外文学の影響関係について論じることが求められる。

例えばそれは、芥川龍之介や太宰治における各国文学の導入という問題や、キリスト教の影響など広範な問題につながることであろう。それを受験生の関心領域や専門分野に即して展開できることが望ましい。

C 近代日本文学史において〈文芸復興〉とは、昭和十年前後に起こった文学の復興運動を指す。プロレタリア運動と、昭和初期に発展したモダニズム文学の衰退傾向に伴い、文学に芸術性を取り戻そうとする動きと呼べるものである。それは志賀直哉、谷崎潤一郎など、既成の作家の復権および、〈新興芸術派〉の台頭などを指す。

それを踏まえた上で、具体的な作家・作品を挙げ、その特徴や〈文芸復興〉という意味づけの中で、それ(ら)がどのような意味を持つのか、また文学史の中でどのように位置付けられるのかなどを記述してほしい。

D これについては、特に解説等は不要であろう。受験生それぞれが選択した〈文芸思潮〉について、大まかにその特徴や内容を述べた後、それに属した作家・作品について具体的に取り上げて論じていただきたい。そこに受験生の、その作品への評価および意義、また研究の方向性が示されることを望む。